毎日新聞

なぜ子供を車内に置き忘れてしまうのか　「展望的記憶の失敗」とは

毎日新聞 2020年7月12日 13時00分（最終更新 7月12日 13時32分）

生野由佳

車内に子供を置き忘れて死なせてしまうケースが相次いでいる＝ゲッティ

子供を車内に置き去りにして熱中症などで死なせてしまう事案が毎年のように繰り返されている。茨城県では6月、在宅勤務中だった父親が2歳の娘が車内にいることを忘れて放置し、死亡させた。ネット上では「子供を忘れるなんて信じられない」という非難の一方で「ありえないとは言えない」「ヒヤリとした経験がある」などという投稿が相次いだ。痛ましい死を防ぐ手立てはないのだろうか。背景を探った。【統合デジタル取材センター/生野由佳】

「仕事のことで頭がいっぱいだった」

茨城県警によると、つくば市で6月17日、朝に父親が小学生の姉と2歳の妹を車に乗せ、姉を小学校に送った後、妹を保育園に預けるのを忘れて自宅に戻り、下校する姉を再び車で迎えに行く際、後部座席のチャイルドシートでぐったりした妹を発見したという。父親はコロナ禍による在宅勤務中で「仕事のことで頭がいっぱいだった」と供述しているという。

ツイッターでは「親としてありえない行動」「子供に愛情がなかったのでは」という批判の声も多かったが、目立ったのは自身が不安を覚えたエピソードだった。「赤ちゃんを家に置いたまま出かけようとしていた」「外出先から帰る時、3人の兄弟のうち、眠っていた一番下の子を忘れそうになった」「自転車のチャイルドシートにいた子供の存在を忘れ、置いたままスーパーに入ってしまった」など、ヒヤリとした体験を語る人は少なくない。

また「スーパーに買い物袋を忘れて、家に帰ってしまうのと同じなのでは」「車で出かけたのに徒歩で帰ってきてしまい、『車がない』と焦ったことがあ

る」など、大切なことを忘れてしまった体験を振り返る声もあった。

「愛情があってもあり得ないことではない」

芳賀繁・立教大名誉教授＝本人提供

「うっかりミスはなぜ起きる」（中災防ブックス）などの著書がある芳賀繁・立教大名誉教授（交通心理学）は「子供に愛情があっても、存在を一時的に忘れてしまうということは、決してあり得ないことではありません」と話す。「毎日の習慣や大事なことは忘れにくいものですが、注意がそれてしまったとき、他のことを考えているときには、予定した行動を忘れてしまう『展望的記憶の失敗』が起きやすいのです」

つくば市の父親の場合はどのような心理が考えられるのだろうか。

「早く帰宅して仕事をしたいという気持ちが強ければ、子供を忘れてしまう可能性もあるでしょう。特に姉を小学校に送り届けて『ひと仕事済んだ』と思うと、もう一つの用事を忘れる可能性が高くなります」

そして、同じようなメカニズムで起きる事例を芳賀さんは挙げる。

「コンビニエンスストアのコピー機で死亡診断書や運転免許証、パスポートなどをコピーした人が、コピーは持ち帰るのに大切な原本を忘れるケースがよくあります」

大事なものの置き忘れを何とか防ぐ手立てはないのだろうか。

芳賀さんは電車やタクシーから降りるときに意識的にしていることがあるという。「座席を振り返って、荷物の置き忘れがないかチェックするようにしています」

親がルールを定めることを提案

子供の車内置き去りを予防するための対応策を紹介するポスター＝NPO法人Safe Kids　Japan提供

医療関係者らで運営し、子供の事故予防を啓発するNPO法人「Safe　Kids Japan」（東京都世田谷区）は7月、「子どもの車内置き去りを予防するために」と題しホームページ（https://safekidsjapan.org/）で注意喚起した。「子どもが（後部座席の）チャイルドシートから降りたら、そこに子どものお気に入りのぬいぐるみを置いてお留守番してもらいましょう。子供がシートに座ったら、ぬいぐるみは助手席に置いてもいいですね」「スマートフォンや財布など大切なものを、後部座席の子どものそばに置く」――と提案し、何らかのルールを定めるようアドバイスしている。米国の関係団体「Safe　Kids　Worldwide」が公表した内容を分かりやすく日本語訳したという。

事務局の太田由紀枝さん（60）は「同様の事案が相次いでいる米国で啓発活動に利用しているアイデアです。大切な命が失われないために参考にしてもらいたい」と呼びかける。

システムで防止する取り組みも

人間ではなくシステムによって防ぐ取り組みも進んでいる。

フランスの大手自動車部品メーカーの日本法人「ヴァレオジャパン」は2021年にも「幼児置き去り検知システム」の導入を目指して製品化を進める。

システムを担当する小谷純也さん（55）によると、北米では毎年30～40人の子供が車内に放置されて命を失っているというデータがあり、海外では積極的に開発が進められている。ヨーロッパでは22年から、

フランスの大手自動車部品メーカーの日本法人「ヴァレオジャパン」の小谷純也さん＝同社提供

消費者団体が主催する自動車安全テスト（Euro　NCAP）の項目に「幼児置き去り検知システム」が加えられるという。

ヴァレオジャパンは車内の生物の動きを感知するレーダーを開発した。たとえば子供が布団の下にいても、呼吸する胸の動きを検知することが可能という。天井にレーダーを設置し、駐車した後も車内に生物がいる場合はアラーム音が鳴り響き、あらかじめ登録した携帯電話に連絡が入る仕組みも設定可能という。

今のところ、国内で取引が決まったメーカーはないが、小谷さんは「米国ではこのようなシステムを義務化する動きもあります。国内でも幼い命が失われており、ハード対策が必要という議論を進めるべきではないでしょうか」と話す。

車内に子供を置き去りにして死亡させた最近の事例

2016年7月　栃木県で父親が通勤する際に男児（当時2歳）を保育園に送るのを忘れ、会社駐車場で死亡

17年8月　宮城県で祖母が孫の男児（同3歳）を幼稚園に預け忘れ、自宅の駐車場で死亡

18年8月　長崎県で帰宅した両親が女児（同1歳）を車から降ろし忘れ、駐車場で死亡

19年8月　富山県で飲酒後、2人の子供と帰宅した母親が女児（同11カ月）だけ降ろし忘れて死亡

毎日新聞のニュースサイトに掲載の記事・写真・図表など無断転載を禁止します。著作権は毎日新聞社またはその情報提供者に属します。
画像データは（株）フォーカスシステムズの電子透かし「acuagraphy」により著作権情報を確認できるようになっています。

Copyright THE MAINICHI NEWSPAPERS. All rights reserved.